

第一学期終業式 式辞

あつと言う間に一学期が終わりましたね。最初に、愛媛県にも甚大な被害をもたらした、西日本豪雨災害について触れておきます。被害に遭われた方々が一日も早く通常の生活に戻られ被災地が復興することを願うばかりですが、今回の災害は「対岸の火事」と捉えてはいけません。世界地図上で数ミリ雨雲がずれていたら、この東予地域が被害に遭っていたかもしれません。災害の時に居住地からどこに避難するのかは家族と話し合っていると思いますが、スマホや携帯は使用できない可能性もあります、家族とはぐれた時どこで落ち合えるのか。そういうことを家で話題にしてみてください。こういう機会に皆さんは「備える」という意識を身に付けてください。そして、機会があれば被災地の復興ボランティアにチャレンジしてみてください。

さて、4月から様々な場面で皆さんの活動を見てきました。授業中の様子、部活動の様子、西高祭やクラスマッチ、学校行事に生き生きと活動する姿は清々しいものでした。新しい年度をスタートさせるとき、私は、皆さんに、「主役でありなさい。決して脇役に回るな」と伝えました。集団の中で、大勢の中の一人に紛れて自分ひとりぐらい誰も見ていないだろう、気付かれないだろう、適当でいいだろうと、脇役に回り、安易な・楽な選択をしないように、主役を演じ続けてください、とお願いしましたが、実践できましたか？ 今、どんな思いが過る一学期だったのでしょうか？ 学期末という節目ですから、しばし、今の自分について考えてほしいと思います。皆さんは、「自分の歩いた足跡に自信が持てますか？」、そして、「今の自分自身に自信が持てますか？」。「過信」はいけませんが「自信」は大いに持つべきです。ではどうすれば「自信」が持てるようになるでしょう？

サッカーW杯ロシア大会はフランスの優勝で幕を閉じました。日本は惜しくもベルギーに敗れましたが、去っていく日本チームのロッカールームの画像がツイッターに投稿され、その心遣いに称賛の声が集まったのは、知っている人も多いと思います。その画像には、ゴミ一つ落ちていないロッカールームのテーブルの上にロシア語で「ありがとう」と書かれたカードと、青い紙で折った折り鶴のようなものも置かれていました。投稿した国際サッカー連盟のスタッフは「本当にお手本のようなチーム。ともに仕事ができ、光栄だった」と語っていました。ツイッターには、日本サポーターが試合後の観客席を清掃することと併せて、「彼らのチーム、観客の両方が偉大な代表だ」「日本人の姿勢は最高だ」「真の勝者だ」などの書き込みが相次いだそうです。同じ日本人としては、誇らしい気分になりますね。日本サッカー協会によると「これが日本流。毎回これぐらい綺麗にしています」と謙遜気味に話したそうです。今回たまたま注目されましたがJFLにとってこれは当たり前のことだったのですね。

長い話になってしまいましたが、どうすれば「自信」が持てるようになるかという話でしたね。それは、この当たり前のことを当たり前にするということです。そのためには「がまん」も「努力」も必要ですが、積み上げたものは、必ず「自信」に変わります。JFLのスタッフも、この当たり前の行為を世界の国々が真似るようになったのですから、大いに「自信」となったはずです。

君らにとって、当たり前のこととは、規則正しい生活を確実に実行することです。次は、その生活の中で目標を持つこと、3つ目は、達成するために計画を立てることです。後は、実践あるのみです。難しいことはありません。

明日から夏休みです。暑い日が続きますが、3年生にとっては、この夏が逆転する最後の勝負の時です。1・2年生にとっても、「自分の進むべき道を見定める」大切な夏です。二学期始業式には、この場にいるすべての人が、「自信」に満ちた表情でそろそろことを確信して、式辞といたします。